

ロボカップジュニアサッカー 審判ハンドブック 2018年岐阜ブロック版

所属

氏名

はじめに

ロボカップジュニアの運営の多くはボランティアによるものです。このガイドブックは、メンターや選手による審判ボランティアをよりスムーズに行っていただけるようにと作成されたものです。

競技中における一人の審判の能力には限界があり、また個人差もあります。

時にはビデオカメラで記録された事実と主審の判断が異なる事もあるかもしれませんが、ロボカップジュニアでは主審の判断を優先し最終決定として扱います。競技の審判を行う方はルール理解に努めたうえで、自信を持って堂々としたジャッジを行っていただければと思います。

大きな声ではっきりと！

主審の判断を選手や観戦者にはっきりと示すために、協議中の宣言は大きな声で行ってください。中立点への移動、カウント、ゴールなどは身振りや指折りを合わせるとより効果的に行えます。

選手としゃべろう！

競技前にロボットの持ち方を聞いたり、一つ一つのジャッジの説明を行うなど、選手とのコミュニケーションを積極的に増やすことで審判への信頼は増します。無言にならないよう注意してください。

公正に、堂々と！

審判は常に両チームに対して公正に接し、堂々とふるまってください。ボール移動の際にも、直接狙える位置に置かない（＝ごつつあんゴールをさせない）など、焦らず慌てず、配慮して行動してください。

試合準備と確認

日本リーグ

ワールドリーグ

主審担当者は試合開始時刻までに各自が担当するコートで行う次の試合のチームを確認し、以下の項目について順にチェックしてください。

試合前のチェック

- ✓ 副審とスコアラーはいるか？
- ✓ スコアボードには次試合のチーム名が間違いなく表示されているか？
- ✓ 試合記録用紙は用意できているか？
- ✓ 赤外線ボールの場合、モードはAで電池は十分(点滅していない)か？
- ✓ コートサイドには2個ずつ計4個のタイマーが用意されているか？
- ✓ 試合チームが車検証を持ってコートに来ているか？



また、コート内にねじ・ナット・ワッシャーなどが落ちていないか、各チームのキャプテンが誰か、なども合わせて確認してください。

準備が整い、試合開始時刻になったら試合を開始してください。

もし片方、または両方のチームがいなくても、主審は試合開始を宣言して次の通り手順を進めてキックオフおよび時間計測を開始してください。

① 試合開始の宣言（挨拶）

「ただいまより〇〇対△△の試合をはじめます。よろしくお願いします。」という主審の挨拶で試合開始の宣言をします。選手・審判同士の挨拶と公式試合の区切りという意味がありますので必ず行ってください。



ただいまより〇〇対△△の試合をはじめます。よろしくお願いします。

② 前半攻撃チームおよびコートサイドの決定

前半攻撃チームおよびコートサイドの決定方法は、「コイントス（もしくは類似の手段）で選択権を決める」または「あらかじめ対戦表で決定しておく」など大会の運営によって異なります。事前の審判ミーティングで確認してください。

この大会における

前半攻撃チームの決定方法は _____

コートサイドの決定方法は _____

片方のチームが試合開始時刻にいない場合は到着しているチームのみで決定を行い、試合を開始してください。

③ ロボットへのマーキング

主審はロボット計4台に対し、トップマーカまたは同様のシールなどを使って数字(1～4)を割り振るマーキングを行ってください。

キックオフ時の故障と遅刻

日本リーグ

ワールドリーグ

キックオフ時に、以下の状態にあるロボットは故障とみなします。

試合開始と同時にペナルティ時間の計測を行ってください。

- ロボットが用意できていない
- ロボットが車検を通過できていない（車検証にサインがない）
- その時点のロボットが車両規定を満たしていない
- ロボットの電池交換・キャリブレーション等を済ませていない
- スイッチのフライングや押しそこねがあった

キックオフ時に片方のチームが遅刻した場合、もしくはロボット2台が故障（上記の状態）の場合は相手側のチームに1点与えて試合時間の計測を開始してください。ただし相手側のロボットは動作させずにゲームは中断します。その後も、ロボットが試合に参加できる様になるまで30秒経過ごとに1点追加します。両チームの得点差が10点となった時点で主審は試合を終了してください。



開始時刻となりましたので〇〇対△△の試合をはじめます。

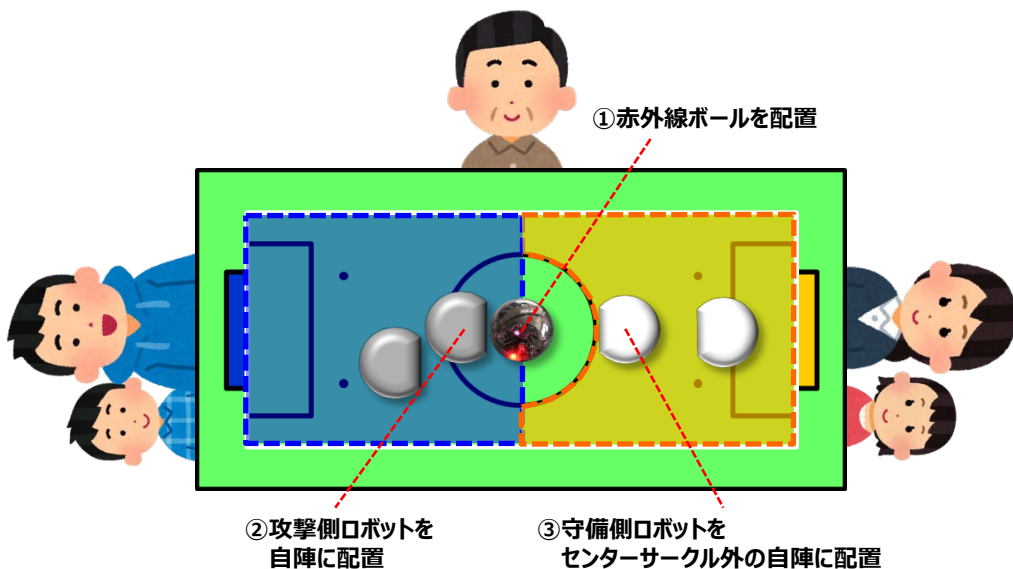
〇〇が2台ともいませんので△△に1点入ります。

試合時間の計測を開始し、30秒ごとに1点を追加します。

キックオフ

日本リーグ

ワールドリーグ



キックオフは前・後半の試合開始時およびゴールによる得点後に行います。アウトオブバウンズや故障により退場となったロボットも、正常に機能する状態で準備できていれば試合に復帰できます。

主審はまず①中央中立点に赤外線ボールを配置し、次に②攻撃側ロボットを配置するよう促します。最後に③守備側ロボットをセンターサークル外に配置するよう促します。一度決めたロボットの位置は変更できません。攻撃側チームのスタンバイ、守備側チームのスタンバイおよび、タイムキーパー（スコアラー）のスタンバイを確認したのち、主審はホイッスルまたはコールによってキックオフをはっきりと指示してください。



攻撃側の準備はいいですか？守備側の準備はいいですか？

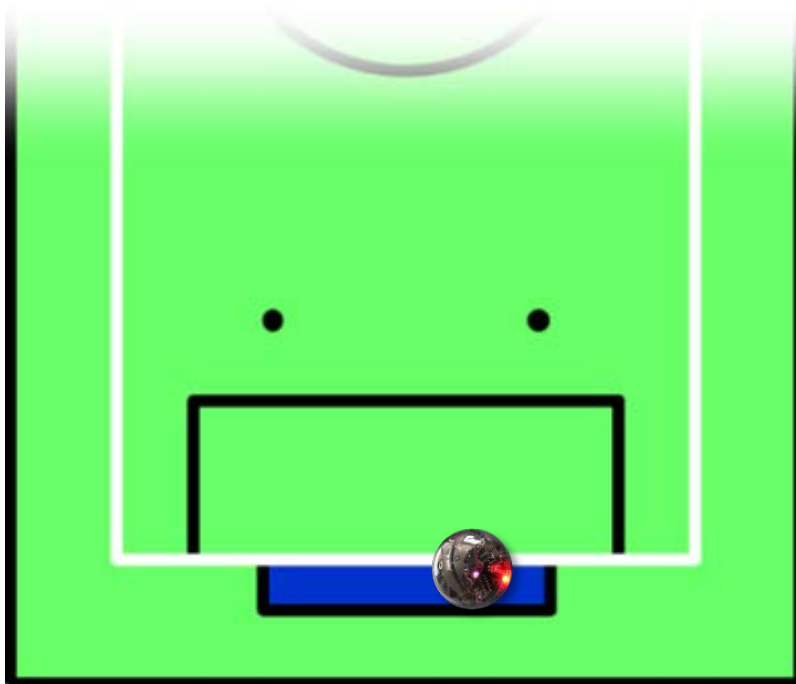
タイムキーパーの準備はいいですか？

それでは始めます **3・・・2・・・1・・・キックオフ！**

得点（ゴール）

日本リーグ

ワールドリーグ



ボールがゴールの後ろの壁に当たったとき、ゴールとなります。

主審は大きな声で「ゴール！」と宣言し、試合を止めてください。どちらのチームの得点かをあらためて宣言して、そのチームに1点加算します。

その後、ゴールされたチームのキックオフで再開してください。

ただし試合の状況・進行に関係なく、両チームの得点差が10点となった時点で主審は試合を終了してください。



ゴール！ ○○○チームの得点です！

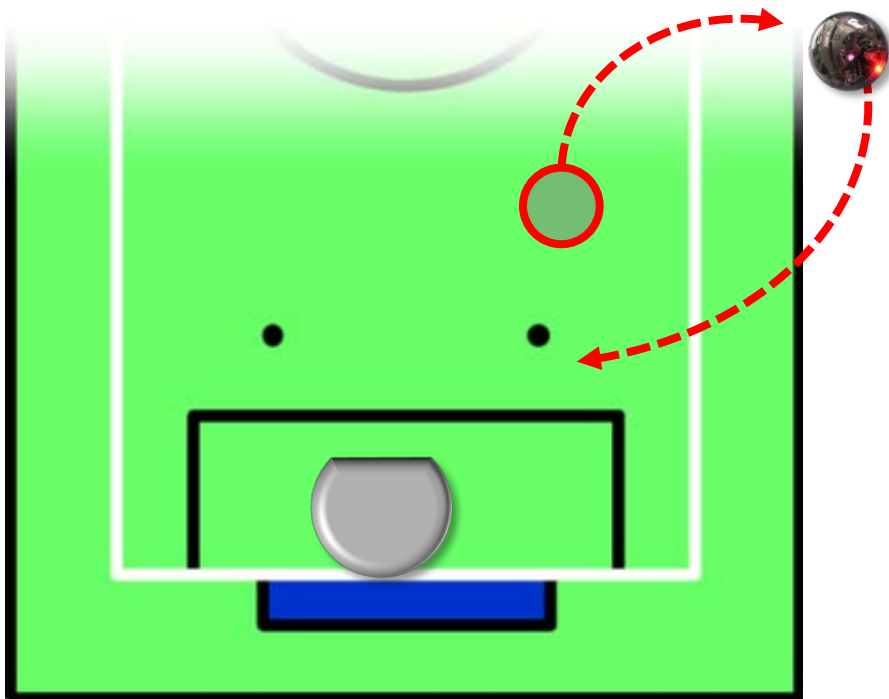
全てのロボットを止めてください。

△△△チームのキックオフで再開します。

ラックオブプログレス

日本リーグ

ワールドリーグ



長い時間にわたりロボットやボールに動きがなく試合が進まないときラックオブプログレスとなります。主審は身振りと大きな声で宣言して5カウントを行い、カウント中に動きがなければボールを取り除いてください。主審は一旦ボールをロボットが見えない状態にした後、最も近い中立点に置きます。反応がない場合再び5カウントして反対側の中立点に移動、さらに反応がない場合5カウントして中央中立点に移動します。中央中立点に置いてても反応がない場合、5カウントしたのちリスタートを行います。

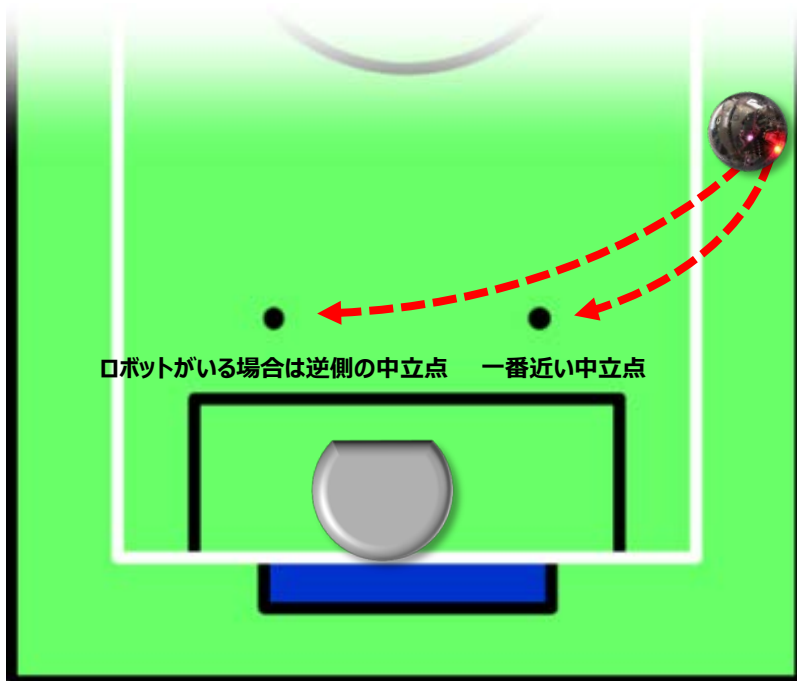


1..2..3..4..5..ラックオブプログレス!

ボールを中立点に移動します。

アウトオブリーチ

ワールドリーグ



ボールが長い時間にわたりアウトエリアで動かない、もしくはロボットがボールをプレイエリアに戻せない状況を、アウトオブリーチと呼びます。主審は身振りと大きな声で宣言して5カウントを行い、ボールを一旦ロボットが見えない状態にした後、最も近い中立点に置きます。最も近い中立点にロボットがいる場合は、逆側の中立点に置いてください。カウントや対処は大会によって異なりますので事前に確認してください。

アウトオブリーチのメモ



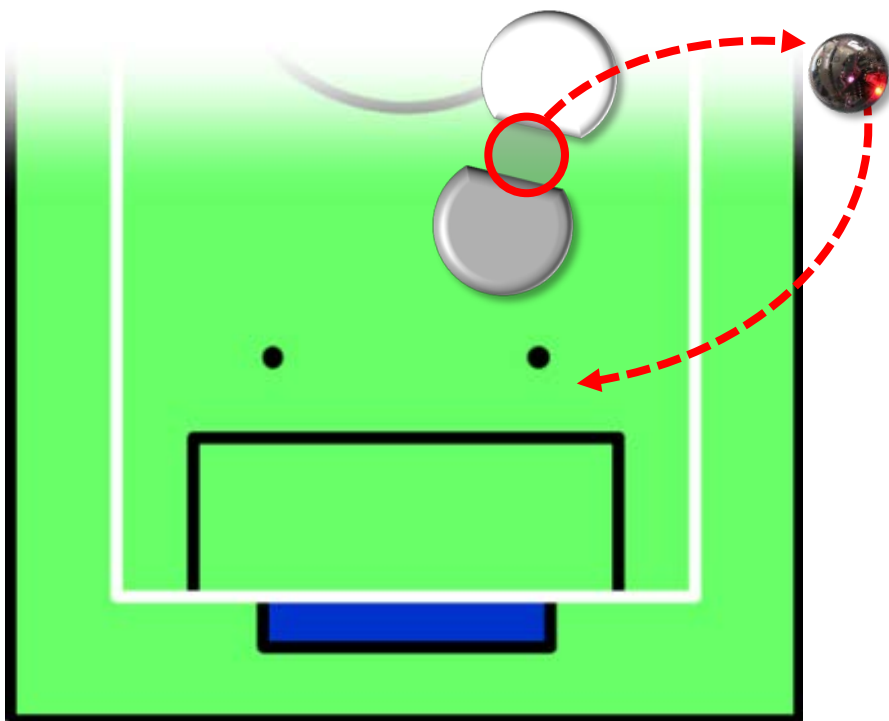
1..2..3..4..5..アウトオブリーチ！

ボールを中立点に移動します。

スタック

日本リーグ

ワールドリーグ



ボールが、ロボットとロボットに挟まれて（ビギナーズの場合はコート
の壁面も含む）動かなくなった場合をスタックと呼びます。

ラックオブプログレスの一種ではありますが、ロボットやコートの破損を
防ぐため、主審は大きな声で「スタック！」と宣言してカウントなしに
ボールを取り除くことができます。

主審は一旦ボールを取り除きロボットから見えない状態にしたのち、最寄
りの中立点に置いてください。

動きがある場合は無理に取り除く必要はありません。



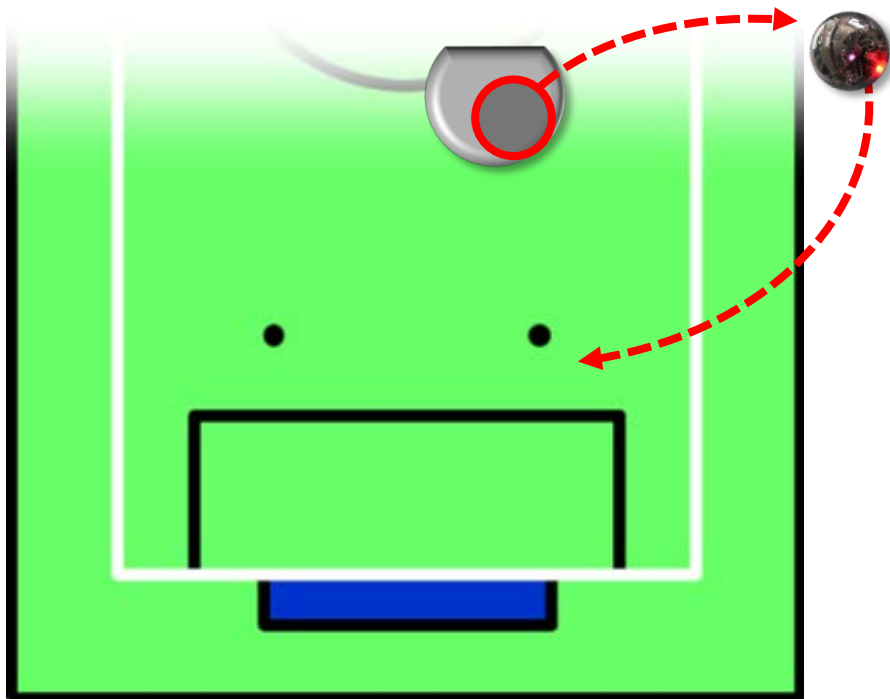
スタック！

ボールを中立点に移動します。

ホールド

日本リーグ

ワールドリーグ



ボールが、ロボットに3cm（オープンの場合は2.5cm）以上取り込まれたりドリブラー以外の方法で固定されたり、ロボットに乗り上げたりする場合をホールドと呼びます。

主審は「ホールド」と宣言して一旦ボールを取り除きロボットから見えない状態にしたのち、最寄りの中立点に置いてください。

偶発的に起こった場合は故障とはしませんが、ホールドを常に起こす様な構造のロボットは故障とみなします。



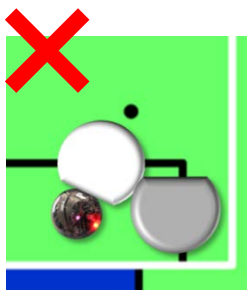
ホールド！

ボールを中立点に移動します。

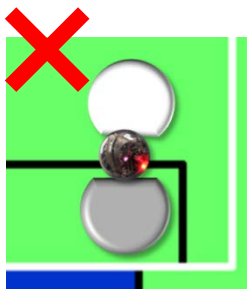
プッシング

日本リーグ

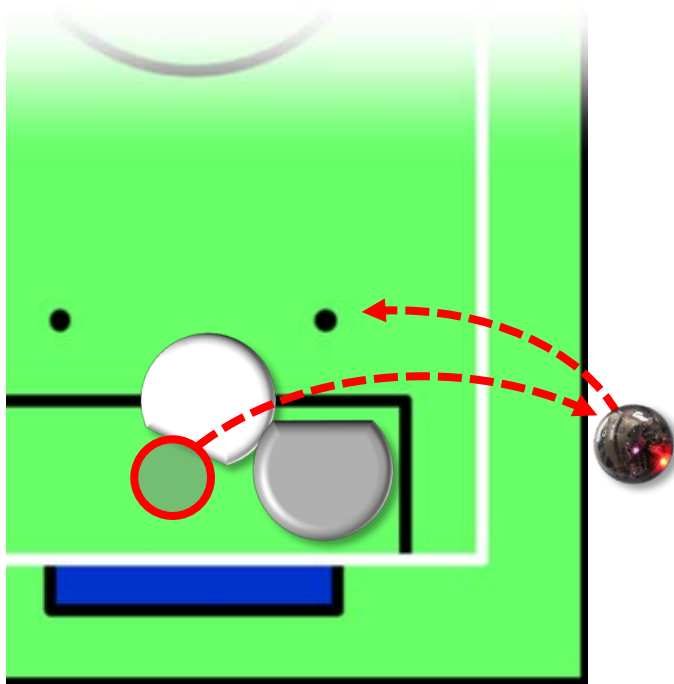
ワールドリーグ



守備側ロボットが完全に
エリアに入っていない



攻撃側と守備側が
互いに接触していない



自陣のペナルティエリアに完全に入っている状態の1台のロボットはゴールキーパーとみなし、攻撃側のロボットと互いに接触していて、かつ少なくとも1台がボールと接触している場合に優先権を与えます。これがプッシングです。ただし守備側ロボットが完全にペナルティエリアに入っていない場合や、2台が互いに接触していない場合はプッシングになりません。主審は大きな声で「プッシング！」と宣言して一旦ボールを取り除きロボットから見えない状態にしたのち、最寄りの中立点に置いてください。プッシングの状況下でボールがゴールされても得点にはなりません。



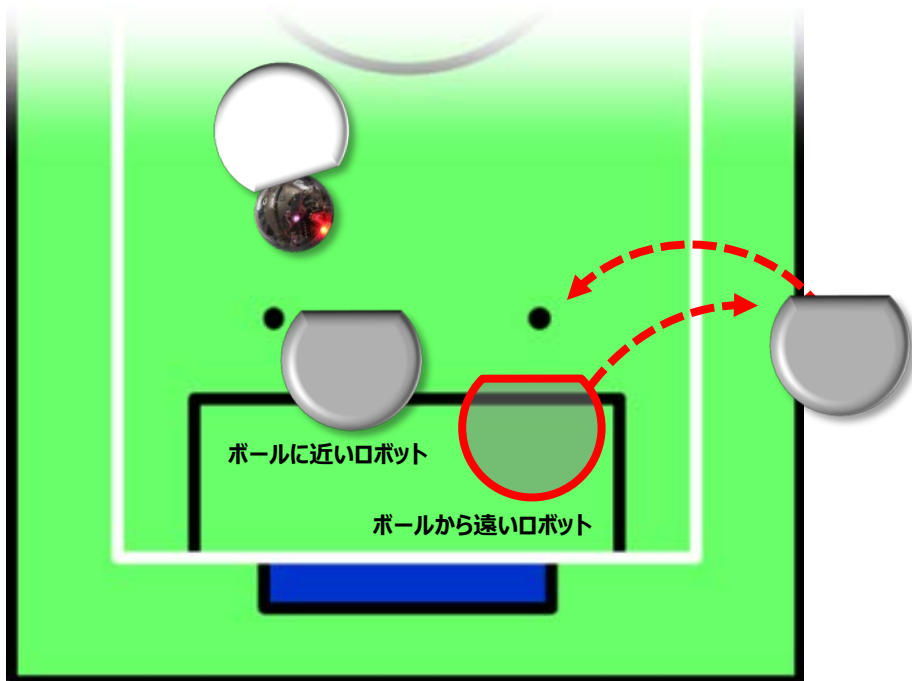
プッシング！（ノーゴールです！）

ボールを中立点に移動します。

マルチプルディフェンス

日本リーグ

ワールドリーグ



守備側のロボット2台が、ペナルティエリアに少しでも侵入して試合に大きな影響を与えている場合を、マルチプルディフェンスと呼びます。

主審は「マルチプルディフェンス」と宣言して、ボールから遠い方の守備側ロボットを最寄りの中立点に移動してください。

主審は必要な時にいつでもマルチプルディフェンスを宣言することができます。

マルチプルディフェンスはダブルディフェンスと呼ばれることもあります。



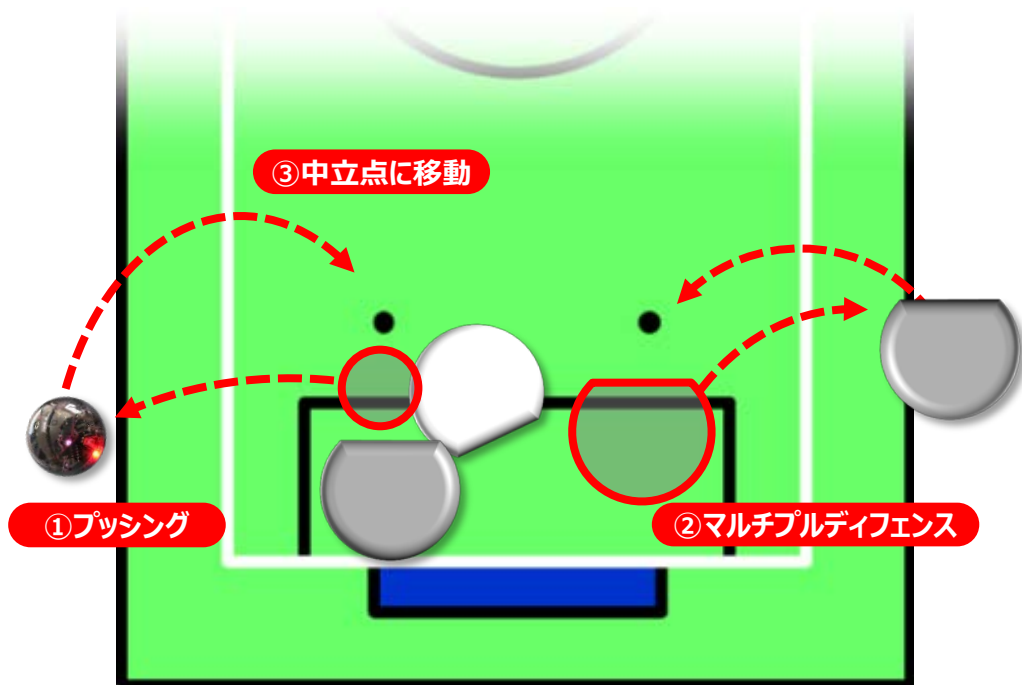
マルチプルディフェンス！

ロボットを中立点に移動します。

同時発生への対処

日本リーグ

ワールドリーグ



プッシングとマルチプルディフェンスが同時発生した場合は、主審はまずプッシングを宣言して一旦ボールを取り除いてください。次にマルチプルディフェンスを宣言してボールから遠かったロボットを中立点に移動させ、最後にボールを最寄りの中立点に置きます。

あわてずにボールの対処を優先してください。



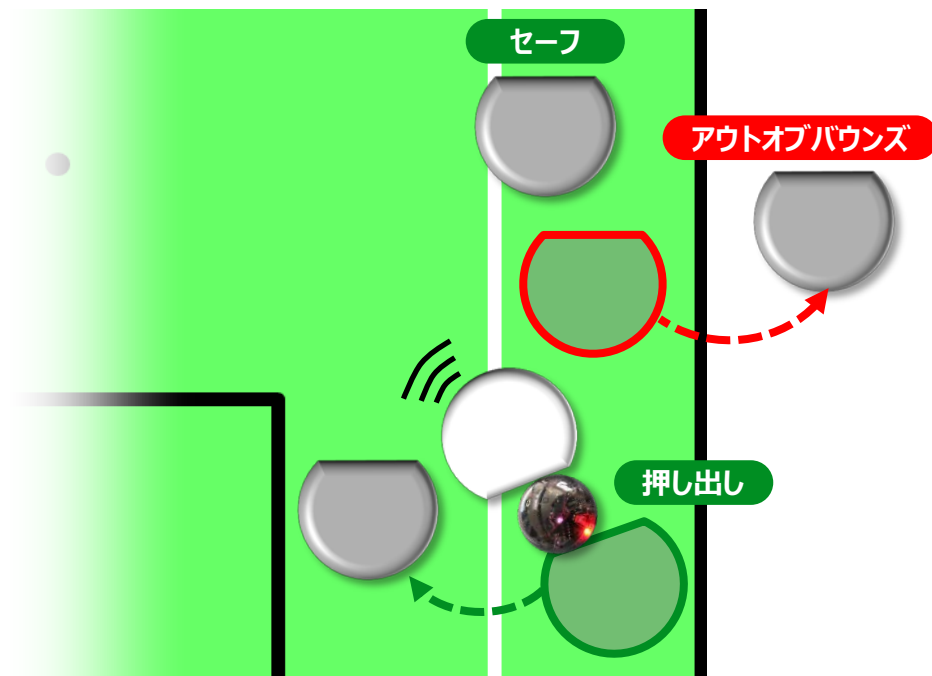
プッシング！ 一旦ボールを外します。

マルチプルディフェンスのためロボットを中立点に移動します。

ボールを中立点に移動します。

アウトオブバウンズ

ワールドリーグ



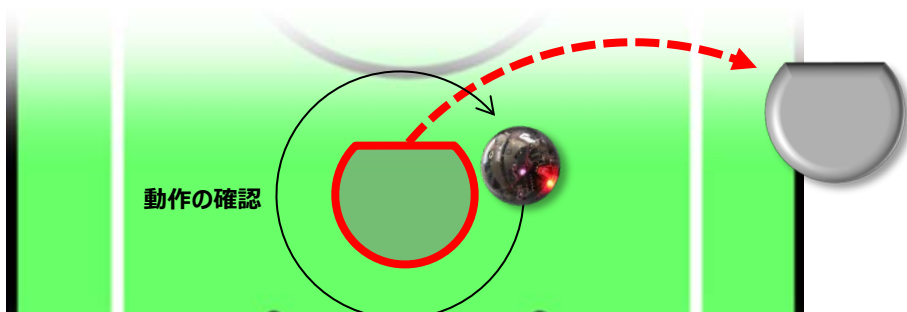
ロボットが自らフィールドの白線を超えてアウトエリアに移動したとき、アウトオブバウンズとなります。主審は「アウトオブバウンズ」と宣言してロボットをフィールドから退場させてください。

ボディが線上にある状態は除きます。他のロボットに押し出されて出た場合は「押し出し」としてロボットをプレイエリア内に復帰させてください。規定のペナルティ時間が経ったらロボットを復帰させますが、時間は大会の運営によって異なります。事前の審判ミーティングで確認してください。

この大会におけるアウトオブバウンズのペナルティ時間は、_____です。



1番ロボット、アウトオブバウンズ！



ロボットが、以下の状態にある場合は故障とみなします。主審は判断をして「故障」と宣言したのちロボットをフィールドから退場させてください。

- ボールに反応しない、1方向に走り続ける
(主審がボールを手にした際ロボットの周りを一周させて確認します)
- 車両規定を満たしていない
(ロボットの部品破損やケーブルのはみ出しによるサイズ違反など)
- 繰り返しゴールに侵入する
- 単独で転倒する

規定のペナルティ時間が経ち、ロボットの修理が済んでいたら復帰させることができますが、時間は大会の運営によって異なります。事前の審判ミーティングで確認してください。

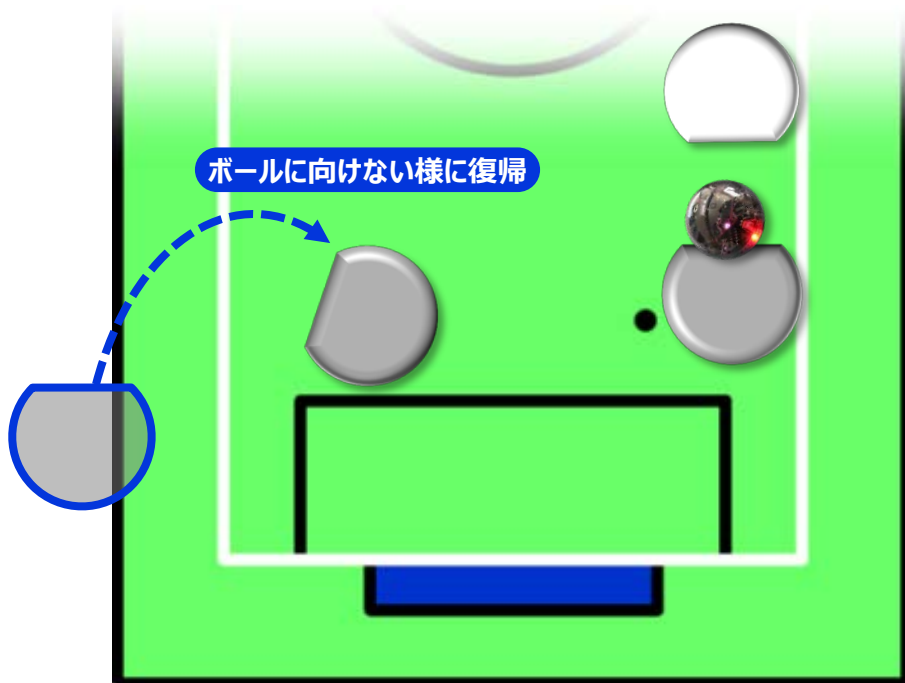
同じチームのロボット2台が同時に故障した場合は相手側のチームに1点を与え、その後ロボットが復帰するまで**30秒経過**ごとに1点追加します。両チームの得点差が10点となった時点で主審は試合を終了してください。

また、ロボット2台が故障したまま試合時間が終了した場合、得点状況に関わらず2台故障となっているチームが敗戦となります。この時の得点結果については一律で「10-0」として処理してください。

この大会における故障のペナルティ時間は、_____です。



ボールに反応しないため1番ロボット、故障です！



アウトオブバウンズで退場になったロボットの場合は規定のペナルティ時間が経ったら、また故障で退場となったロボットの場合は規定のペナルティ時間が経ちかつ修理が済んでいたら、フィールドに復帰させることができます。主審は適切なタイミングで、退場した位置に近く、占有されておらずボールが近くにいない中立点を指示して復帰を促してください。選手はロボットがボールを直接狙えないよう、ボールに正面を向けない状態で復帰させる必要があります。

故障したロボットの修理が完了しているかどうかは主審が判断します。

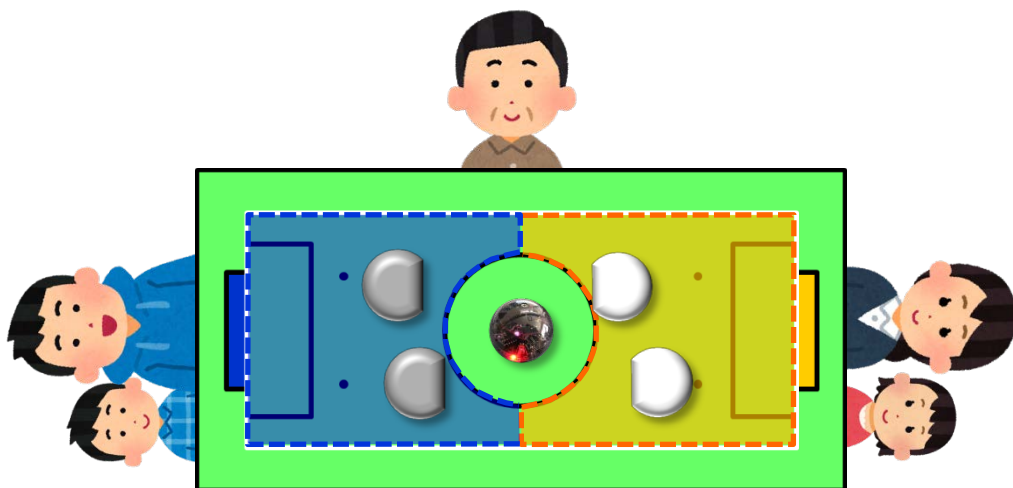


その中立点に、ボールに向けない様に入れてください。

リスタート

日本リーグ

ワールドリーグ



全てのロボットをセンターサークル外の自陣に配置

主審は、ラックオブプログレスにおいていずれの中立点にボールを移動しても試合が進まない場合や、アウトオブバウンズや故障により両チームのロボット4台すべてが退場となった場合はリスタートを行ってください。リスタートの場合アウトオブバウンズや故障により退場となったいずれのロボットも、正常に機能する状態で準備できていれば試合に復帰できます。主審は中央中立点に赤外線ボールを配置し、両チームのロボットをセンターサークル外の自陣に配置するよう促します。通常のキックオフと同様に、主審はホイッスルまたはコールによってキックオフをはっきりと指示してください。



全てのロボットをセンターサークルの外側に復帰させてください。

それでは始めます **3・・・2・・・1・・・キックオフ！**

試合時間とその中断・試合終了

日本リーグ

ワールドリーグ

試合時間とその中断

各試合の試合時間・ハーフタイムは事前に確認してください。主審が中断を告げる特別な場合以外、原則として開始した時間計測の中断はしません。ただし、試合中発生した問題の協議が必要な場合やけが人の発生など速やかな対処が必要な場合、主審は試合を中断することができます。その場合は全てのロボットをその時の状態で停止させてください。主審は再開の際、中断時の状態で再開するかキックオフで再開するかを選択できます。

試合時間のメモ _____



ボールの交換のため試合を中断します！

時計を止めて、各チームはロボットをその位置で停止させてください。

試合終了

後半戦終了時点または、試合途中であっても両チームの得点差が10点となった時点で試合が終了します。主審またはタイムキーパーは大きな声で終了を宣言してください。コール後に入ったゴールはカウントしません。得点板を確認しながら「ただいまの試合はX対Xで〇〇の勝ちです。」と述べて挨拶してください。記録用紙に各チームのサインを記入してもらい、主審のサインを記入したら試合は終了となります。



試合終了までの残り30秒です！・・・5秒前・・・4・・・3・・・2・・・1！

試合終了です！！ロボットを止めてください！



只今の試合2対1で〇〇の勝ちです。ありがとうございました。

各チームのキャプテンは記録用紙を確認し、サインをしてください。

警告・カード

フェア精神に反する重大な違反があった場合、チームもしくはロボットに対して主審は警告・カードを出すことができます。警告・カードを出した場合、主審は必ず記録用紙に理由と警告の種類を記入をしてください。

基本的に「①警告」→「②イエローカード」→「③レッドカード」の順に出され、レッドカードが出されるとチームの場合は大会への、ロボットの場合はその試合への参加資格を失います。

チームに対する警告・カード

チームメンバーによる以下の行為があった場合、主審はそのチームへの警告・カードを出すことができ、警告・カードは大会期間中累積します。

- 試合中のロボットへの干渉
- 審判への抗議（抗議でなく質問は可能です）
- 試合のサボタージュ

ロボットに対する警告・カード

ロボットによる以下の行為があった場合、主審はそのロボットへの警告・カードを出すことができ、警告・カードはその試合中のみ累積します。

- 相手チームのロボットが傷つけられる
- 審判や選手がけがをする
- ボール、フィールドが破壊される

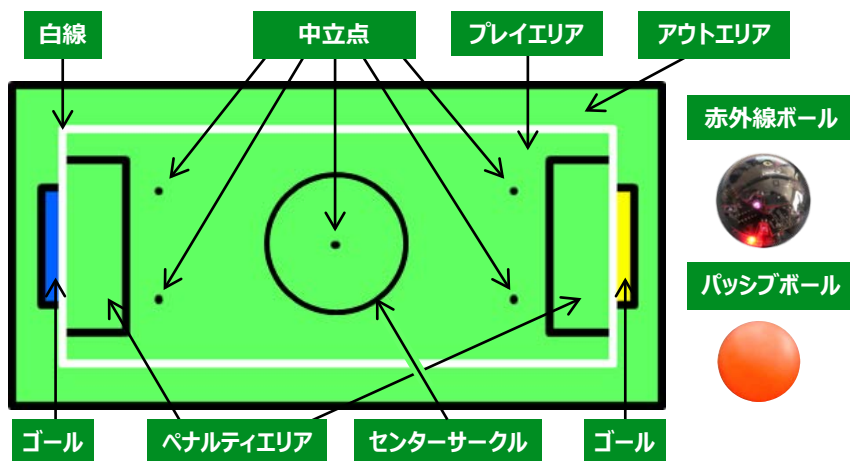
不戦勝（不戦敗）

組み合わせ上対戦相手がいなかったときや、対戦相手が何らかの理由により試合に参加しなかった場合、その試合は不戦勝（不戦敗）となります。不戦勝（不戦敗）の試合および、同チームの2台が故障のまま試合が終了した試合は、得点結果を一律で「10-0」として処理してください。

アウトオブバウンズ・故障時の対応早見表

1台目 ロボット	2台目 ロボット	競技進行
故障	故障	2台目が故障した時点で相手側のチームに1点を与えます。競技の進行は止めますが、時間計測は止めません。 2台目の故障から30秒たってもどちらも故障から復帰できない場合はさらに1点を追加し、その後30秒経過ごとに1点を加えていきます。 ※試合途中であっても両チームの得点差が10点となった時点で試合が終了します。 ※2台が故障したまま試合終了した場合、得点状況に関わらず2台故障となっているチームの敗戦となります。
故障	アウトオブバウンズ	競技はそのまま続行します。
アウトオブバウンズ	故障	キックオフまたはリスタートの時点で、いずれのロボットも正常に機能する状態で準備できていれば試合に復帰できます。
アウトオブバウンズ	アウトオブバウンズ	
両チームのロボット4台がアウトオブバウンズ		4台すべてのロボットがフィールドからいなくなった時点でリスタートを行います。いずれのロボットも正常に機能する状態で準備できていれば試合に復帰できます。

用語集



コートチェンジ

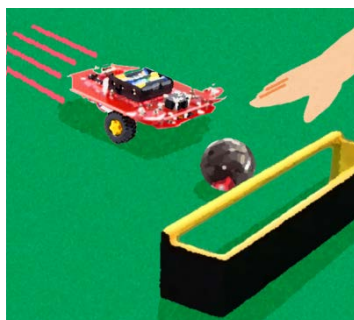
通常のサッカーの試合と同様、ロボカップサッカーでも一般的に前半戦と後半戦とでコートサイドとキックオフを交替します。

ノーゴール

ゴールとしてカウントしない事。プッシングなどのファウルの後に起こったゴールはゴールとみなしません。誤解されない様にはっきり伝えます。

ごつつあんゴール

審判が、ゴール前で待ち構えるロボット前方の中立点に不用意にボールを移動することで、即座にロボットにゴールを決めさせてしまう事。審判がアシストしてしまったように見えて不公平に映ります。中立点へのボールの移動は焦らず慌てず、落ち着いて行いましょう。



シフト表

	日時	コート	審判スタッフ ()	審判スタッフ ()	チーム (青・黄)	チーム (青・黄)
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						